

Merry な街づくり

「あなたにとって Merry（幸せ）とは何ですか？」この単純な質問を街角の人々に投げかけ、彼らの笑顔とメッセージを集めて、街中に展示する。「Merry」とは、メリークリスマスのメリーで、幸せ・楽しさ・陽気さといった意味の言葉である。笑顔の写真を撮るだけでなく、「夢は地球を明るくすること」、「平和が1番」など、それぞれのメリー観を写真の下に添える。これが、6年ほど前から継続中のプロジェクト「Merry」である。

「人々の笑顔で街を元気にしよう」というコンセプトのもとに、震災後の神戸、同時多発テロ1年後のニューヨーク、そして長引く不況で元気がでない東京の各所で、笑顔のコミュニケーションアートを展開してきた。

コミュニケーションアートとは、様々な人々が笑顔とメッセージを通して積極的にプロジェクトに参加し、その意義やコンセプトを共有することによって初めて成立するものだとは私は捉えている。

パブリックスペースを使った作品展示は、不特定多数の人の目に触れやすい上に反応が返って来やすい。街全体をギャラリーに変えて、社会や企業を巻き込んだプロジェクトにしたかった。

私はこの Merry Project で、6年間に約2万人の世界中の笑顔フィルムに収めた。

「言葉や文化の違いを超えてすべての人を幸せにさせる共通の表現」としての Merry は、私が米国を旅行した際に、偶然であった少女たちの笑顔に魅せられて写真を撮ったことがきっかけで始まった。以来、「はい、にっこり」と言いながら、たった2台のカメラで写真を撮り続けている。1台目では硬かった表情が、別のカメラに持ち替えた瞬間、自然な笑顔になるという法則がある。私は、元気な笑顔の彼女たちに大きな可能性を感じた。「日本の未来は大丈夫だ！」と。しかしながら、これからは、もっと具体的かつ主体的な形で、継続的に社会に貢献していくべきだと考えた。

"Merry Clean Up Project" は、地球環境を足元から見直し、自分たちが出来ることから世界を変えていこう、と始まった企画。ゴミを拾うこと自体よりも、拾っている姿をアピールすることで、ゴミを捨てさせない Merry な街づくりを目指している。撮影で訪れた23カ国でも水谷を中心にこのプロジェクトを実施。キューバでは周りで見ている多くの子どもたちが「一緒にゴミ拾いさせて！」と集まってきたり、オーストラリアではアボリジニの子供達が、ゴミ袋を取りあってまで一緒にゴミ拾いをしてくれた。子供達は本能的に"環境"を感じていた。

会期中には、愛・地球博のパートナーシップ事業、"Merry Expo Clean Up Project"として全4回のクリーンアップを実施。第1回の5月30日(ゴミゼロの日)には名古屋市栄でクリーンアップを行った。クリエイティブな若者達が参加し、名古屋の街が本来持つ"すっぴん"の美しさを取り戻した。東京からも Merry の輪を広げようと実施された第2回の新橋・汐留では、地元の小学生や出勤前の会社員などさまざまな人々が参加。第3回は9月17日に、六本木ヒルズ自治会とのコラボレーションによる、MERRY EXPO+ ROPPONGI CLEAN UPとして実施した。

毎回参加していたキッコロとモリゾーに加え、六本木ヒルズのキャラクター、ロクロク星人も参加し、ひと味ちがう Clean Up となった。第4回の9月19日は名古屋市内に住む200万人で Merry な街をつくってこうと、FM ラジオで実況ライブ中継をしながら行った。白川公園、名城公園、鶴舞公園の3カ所からスタートした参加者が栄のテレビ塔を目指してゴミ拾い。参加した多くの子どもたちは暑中、競うようにゴミを拾い、つられてほかの参加者もどんどんゴミを拾った。地球を想う Merry な気持ちで万博終了後も育ち続け、やがて大きな花となって欲しい。そんな願いを込めて、参加者に花の種が渡された。集められたゴミ袋には、キューバの子供のメッセージが秋の太陽に光っていた。「世界に希望を！」。